

ほぼ毎日、お昼寝の時間を利用して年長さんと「哲学対話」を行っています。こちらでテーマを決めることもあれば、子どもたちの方から「今日は〇〇について話したい！」とってくることもあります。

ある日のこと、Hくんが「『誕生日はなんであるの？』ってテーマで話したい！」と言ってきました。それを聞いて私は、誕生日は自分が生まれた日で、毎年それを記念してお祝いするものだけど、Hくんはそれ以上の何を知りたい（考えたい）のだろう？と気になり、「え、どうしてそのテーマで話したいの？」と問い直してみました。すると、Hくんは「だって、この前、Hくんのママが『今のまんまがいいなあ』って言わしたもん」・・・なるほど、そういうことかと納得しました。「つまり、Hくんのママは、『Hくんが今のまんま大きくならないでほしい』って思っていて、だけど誕生日が来るたびに大きくなっちゃうから、『Hくんの誕生日が来なければいいのに』って思ってるってこと？」「うん」

Hくんは、自分も誕生日が来るのを楽しみにしているし、家族や周りのみんなもきっと自分の成長を喜んでくれるものだと思っていたと思うのです。ところが、ママはHくんに誕生日は来てほしくない、Hくんには今のままでいてほしいとってることを知り、あれっ？と思ったのでしょうか。「今のままのHくんがだいすき！」というお母さんからの無条件の愛情を感じつつも、「これ以上大きくななくていい」というママの思い、でも自分は大きくなりたいし、嫌でも成長するし、誕生日も楽しみだから来てほしい・・・などなど、さまざまなことを思い描いて、複雑な気持ちになっていたのかもしれませんが。（もちろん、ママだって本当はHくんが成長することを楽しみにしていると思いますし、きっと喜んでいてくれることでしょう）そうやって考えはじめたら、「誕生日はなんであるの？」というテーマは、なんて奥が深いんだろうと思えてきました。

実際に年長さんとそのテーマで話してみると、「誕生日が来なかったら、ずっと赤ちゃんのまんまでお話もできないし、ずっとミルクとかおっぱいばかり飲まないといけない」とか、「赤ちゃんのまんまだったら歯が生えてこないから硬いもの食べられないし、クッキーとかアイスも食べられない。自分で歩くこともできない」「行きたいところにも行けない」さらには、「おねえちゃんたちは大人になっていいけど、おねえちゃんたちは大人のまんまで、自分は小学生のまんまでかわいがってもらいたい」だとか、「おじいちゃん、おばあちゃんにはなりたくない（そのまま年をとって死んじゃうから）」「私はおおきくなったら、パイロットになりたい。だって、パパが遠くにいくときに私の飛行機に乗るかもしれないから」などなど、単純に誕生日が来て、一つ歳を重ねて大きくなることを楽しみにしているというだけでなく、自分の成長を振り返ったり、きょうだいや家族の姿を思い描きながら、自分の将来など、いろんなことに考えを巡らせているようでした。

哲学対話では、答えを出す必要はないと思っているので、子どもたちの自由な感じ方、考え、発言をおもしろく聴くことができます。